ペグリポソーム化ドキソルビシンによる薬剤性肺障害の１例

全著者名前

嶋田　有里[1)]，伊東 友好[1)]，吉村 聡一郎[1)]，石山　福道[1)]，服部　剛士[1)]，稲田 祐也[1)]

全著者所属先

1)　関西電力病院　呼吸器内科

要旨

症例は 49 歳女性．入院 72 日前に左卵管癌に対してペグリポソーム化ドキソルビシン (pegylated liposomal doxorubicin: PLD)を初回投与したが，労作時呼吸困難，咳嗽を自覚したため精査目的に当院に入院となった．胸部 CT で両肺野にびまん性のすりガラス陰影を認めた．PLD の中止とステロイドの開始により，呼吸状態，画像所見ともに改善し，同薬剤による薬剤性肺障害と診断した．

キーワーズ：
ペグリポソーム化ドキソルビシン pegylated liposomal doxorubicin，薬剤性肺障害 Drug-induced lung injury

短縮タイトル
ペグリポソーム化ドキソルビシンによる薬剤性肺障害